

将来を担う世代を育む

子育て家庭の経済的事情、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などにより生じる子育ての不安や悩みを解消するための支援体制構築と、Society5.0を生き抜く児童・生徒のICTリテラシーなどを育む義務教育や高校教育の教育内容の充実などにより、子育て・教育のトッランナーとして、「働きながら安心して子育てができ、切れ目なく一貫した教育が享受できる環境」のさらなる発展を目指します。

注目するキーワード

ひとづくり 子育て・教育のメッカ

01 中小都市・中山間地域のモデルとなる 府中版ネウボラの実施 2,187万円

母子保健と子育て支援の窓口を一本化し、保健師、保育士などの専門職のきめ細かい支援体制を構築することで、子育てしやすいまちを目指します。また、北部圏域では、妊娠、子育てから障害者・高齢者のサポート体制も含め、中山間地域の共生社会の実現を目指します。

02 AIを活用した 虐待リスクの早期発見 100万円

福祉や教育などの子どもの育ちに関する情報をAIを活用しリスク予測を立て、その結果を参考に支援の必要性を判断し、虐待の未然防止を図ります。

03 GIGAスクールの先行的実施 (児童生徒4学年以上1人1台タブレット配布) 8,856万円

ICT機器を活用した学びを実現し、情報活用能力を育成するために、1人1台のPC端末を整備し、授業では大型掲示装置と接続して活用する。また、個々の学習履歴を客観的に把握できる基盤を構築し、個別に最適な学びを実現します。

04 学力向上のための 校内軽食ブースの設置 95万円

朝食欠食が学習状況に影響する報告がある中、市内中学校の朝食摂取状況が低位であることから、中学校では1時間目前、小学校では1時間目休憩に、誰もが利用できるイートインコーナーを設置し、朝食と飲み物の摂取を促します。今年度はモデル校のみの試行。

05 コミュニティ・スクールの ネクストステージ 120万円

全国コミュニティ・スクール研究大会の参加者に注目を集めた実践交流会「エクスカーション」の定着と発展を目指し、年に1度、専門家などが府中市に集結する場を設定する。また、「学校と地域の学び」をカフェでつなぐ場を校内に作り、子どもたちへの豊かな関わりを展開します。

06 教育用ドローン等を使った プログラミング教育 400万円

6年生理科単元で、人感センサーを用いて通電・消灯を制御するプログラムの作成を通して、電気の性質の理解を深める。5年生には、教育用ドローンを用い、プログラミングの魅力を感じさせ、さらに市の産業界の挑戦に関心をつなぐことで教室の学びが市のまちづくりに直結しうる教育を推進します。

07 新カリキュラムの開発による言語技術の育成 796万円

「言語技術」指導を「教育課程の特例」ベースカリキュラムとして開発し、児童・生徒の学力向上を図ります。つくば言語技術教育研究所と連携し、言語技術指導カリキュラムの作成やプロジェクト研究協議会の設置を行います。

08 上下高校の魅力づくり支援 1,146万円

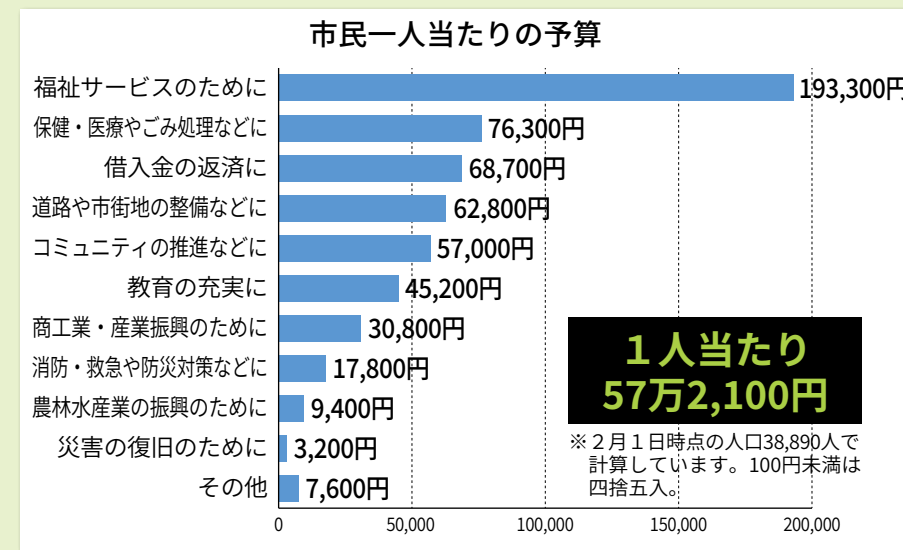
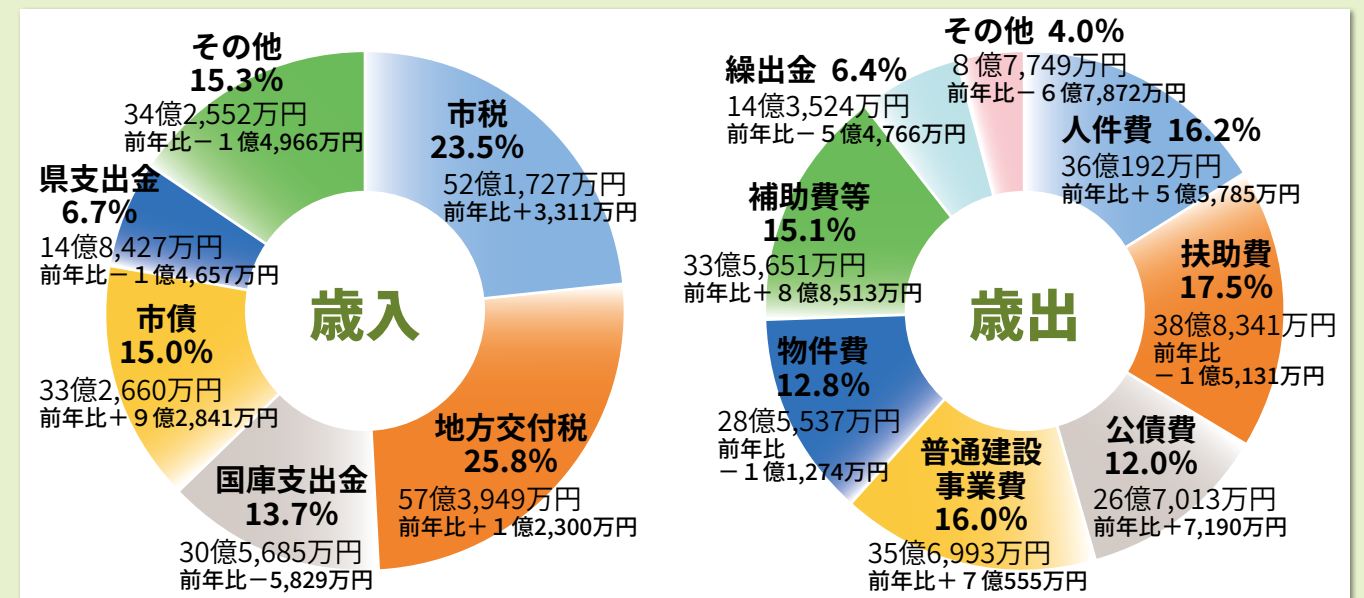
地域に欠かせない高校の存続のため、選ばれる高校となることを目指す。今年度は、通学の不便さを解消するため、スクールバスを運行し、天領あやめ塾では、地域の魅力づくりを実践的に学ぶ場を設けます。

令和2年度予算

-希望と笑顔があふれるまちづくり-

令和2年度は、府中市の持つ強みをさらに磨き上げ、魅力あふれるまちづくりの実現に向け、昨年度策定した計画・ビジョンに掲げる施策を実行に移すとともに、新たな潮流であるSociety5.0、DX（デジタルトランスフォーメーション）を見据え、ICT都市ふちゅうの実現に取り組みます。

「選ばれるまち府中」を実現するための事業の推進と、持続可能で質の高い行政サービスの提供の両立を実現することを基本とし、これまでの新たな芽出しや手ごたえを確実な流れへと成長させていくとともに、各種計画やビジョンに掲げる方向性を具体的な形にしていくための実行予算です。その中でも重点施策となる33事業を紹介します。



一般会計予算総額
222億5,000万円

対前年比 7億3,000万円増

問い合わせ先
財政課（☎43-7119）